

右の写真は、私の実家前にある水路の溢水を防ぐコンクリート壙です。今から四十一年前の長崎大水害の日、当時は半分の高さだったコンクリート壙は、水路からあふれ出す水を抑えきれず、鉄砲水が実家を襲いました。



命を見つめる教育週間終了
テーマは「限りある命・
命のはかなさ・命を輝かせ
て生きる」

に、薄暗く、やや強い雨が降っていました。バスで崎市に入るまでに雨脚は増し、やがて、どしや降りの雨に変わりました。家にたどり着き、水路からの鉄砲水を防ぐため、土嚢を積み石を積んだ時の記憶は、今でも鮮明です。

自然の猛威に立ち向かうことの困難さ、辛さを味わった一夜の記憶です。

崎大水害を振り返る私の講話からスタートしました。四十年前のあの日、私は親元を離れ大学に出てから初の帰省の日でした。悪天候のため、その日、長崎空港に到着の便は、私が東京から乗った便が最後となりました。その後の便は、皆、出発空港に引き返したか、出発できなかつたようですが、長崎空港に夕方到着すると、まだ夕方五時なの

た。ついで生徒は学習しまし
た。



二日目は 情報モラル教育

随分と増えています。そのため、学校での情報モラル教育の必要性と重要度が高まり、今回のような指導を行つていいところです。

学校での指導に合わせ、家庭でネットへの関わらせ方、携帯端末やパソコン等の使用に係るルールづくりが行われ、一層に効果があります。今回授業で使用した『SNSノートながさき』は『保護者用』も発行されています。家庭でのルールづくりに役立つ資料やファイルタリング設定などが掲載されています。「SNSノートながさき」で検索し、県教育センターホームページにある『SNSノート保護者用』で閲覧が可能です。

五日目は 「生徒総会」 校則を検討

経験が学校生活に生かされることを期待します。

第二号議案「私たちの約束改定」に十分な時間をかけた今年度の生徒総会。これまで当たり前だと捉えてきたルールに疑問を持ち、現実に合い、より生活しやすく、一人一人が輝き、生き生きとした生活を送るための意見の交換が活発に行われました。批判的思考と論理的思考を働かせ、周りの課題を自分事として捉える生徒の姿に、生徒の成長を感じる総会となりました。

週間の最終日は「生命の尊重」をテーマにした道徳の授業を公開しました。



二十年前の七月一日に長崎市で起きた痛ましい少年事件、事件が起きた日と同じ七月一日に、二十年後の中学生が真剣に自他の命を見つめた授業、授業後の「生命尊重」をテーマにした保護者との懇談会にて、命の週間を閉じました。

最終日は命を見つめる 道徳授業公開